

オリハラカ終わりました。悲願の勝利の種目もありました。「悲願」も「勝利」も仏教用語。以前にとりあげました。負けると悔しくて「ちくしょう」と口走ることがあつたかもしだれません。この「ちくしょう」も仏教用語です。「畜生」と書きます。

サンスクリット語（梵語）の「ティリヤンチュ」が語源です。仏教においては人間以外の全ての動物のことを指します。そして、人間を含む生き物の状態を六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天）に分け、「畜生道」は人間が悪業の報いとして死後に生まれ変わる世界としています。

腹を立てた時に口走る「こんにちくしょう」の「ちくしょう」は「畜生」です。「このこんにちくしょう」が「こんにちくしょう」に

方人間は「生きるため」に必要な以上に他の生物を殺したり、「生きるため」とは関係なく他の生物を殺したり（ハンドバックにするとか）、絶滅させたりします。さらに同種同士で殺し合うのは地球上の生物の中で人間だけです。お釈迦様は畜生より人間の方が心配だと思っていたことでしょう。

か優れでいるのではなく、畜生以上に厄介な存在であるからこそ、仏性を開かなくてはならないと言えます。

ちなみに「大衆」も仏教用語。「だいしゅ」と読みます。日常会話では人々のことを指しますが、仏教用語的には僧あるいは修行中の菩薩のことです。仏教用語における人々は「衆生」です。

生きることはすべからく修業であり、仏性を開こうと努力する者はみな菩薩です。したがつて、人々は菩薩すなわち「大衆」にほかならず、そういう意味から菩薩を表す「大衆（だいしゅ）」が人々を表す「大衆（たいしゅう）」に転化しました。

それではまた来月。ごきげんよう。

第18回「弘法さんを語る会」

「名古屋城下町と寺町の歴史」

11月開催予定 (予告です)



コロナの状況などを踏まえて、日時を決定します。予約制です。
事前のご案内ご希望の方は事務所にご連絡ください。



いわら版執筆者・大塚耕平が
お話をさせていただきます～

**お申込制
参加無料**

お申込み先
【事務局】あさい 052-757-1955

大塚耕平事務所 名古屋市千種区覚王山通 9-19 覚王山プラザ 2F

皆さん、こんにちは。いよいよ秋ですね。まだ9月ですが朝晩は肌寒くなりました。くれぐれもご自愛ください。かわら版では日常会話の中に含まれている仏教用語をご紹介しています。知らず知らずのうちに使っている仏教用語。それだけ日本人の生活に溶け込んでいるということです。

転化していきました。平安時代の源信は「往生要集」の中で「畜生は強弱たがいに危害を加え、相手を飲みこんだり、食い殺したりして、しばらくでも安らかであつたためしがない。昼も夜もつねに恐怖心をいだいている」と書いています。しかし畜生の殺生は「生きるため」。言わば食物連鎖。一

動に走ります。そういう人間にならないよう自らの「仮性」を開く努力が必要です。涅槃經獅子吼菩薩品というお経には「一切の衆生は悉く仮性を有す」と記してあります。衆生（しゅじょう）は人間のこと。仮になれるのは有情の「衆生」のみであり、非情の「畜生」は除外されると記していますが、だから人間

耕平さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
052-757-1955
kouhei@oh-kouhei.org



第18回「弘法さんを語る会」

「名古屋城下町と寺町の歴史」

